

Lina LOHAS通信

—自然との深い対応と共生—

私は、今年の4月から月1回のペースで一年間というフォーラムに参加しております。それは「アチック・フォーラム・銀座吉水」という、お食事（ちょっと前の日本のごはん）と映画の会なのです。東京銀座の宿“吉水”で軽い夕食を頂き、そのホールにて19:00から映画となるのですが、その映画とは、テレビのシナリオライターの傍ら、尊敬なさっていた民俗学者・宮本常一氏に師事し、1961年に“民族文化映像研究所”を設立、それ以来今日まで、47年もの長きに渡り、日本の基層文化を映像で記録・研究されてこられた『**姫田忠義氏**』の全作品119本のフィルムのことなのです。さらに嬉しいことに、上映会には姫田氏のご出席もいただき、上映後に先生のお話がありまして、参加者からのご質問も多く、これがとても楽しみです。

私は、宮本常一氏のお名前だけは、以前より聞き知っておりましたが、姫田先生のこと“民族文化映像研究所”のこと全く知らず、今回のフォーラムに参加できることになり、五十年近くの年月を経てこんなに素晴らしい映像が作られていたということを初めて知り、本当に感動いたしました。

第一回目の4月11日に上映された2作品は、「うつわ 食器の文化(1975年作)」と、「奥会津の木地師(1976年作)」でした。私達が普段何気なく使っている木の椀。これは、日本の食器の典型であり、日本人の食生活の歴史がそこに凝縮していると考えられるのですね。ひとつの木椀が作られるまでの木地師のエネルギーと技術を記録し、それを通して、日本における山地生活者の歴史へアプローチしようとしたものだ、と、姫田先生はおっしゃいます。

先人から受け継がれた知恵と文化をどんどん失いかけている今の日本に、このように自然の中に同化しつつ力強く生きてきた、簡潔な昔の人の生きざまを知ることでできる映像記録は、本当に貴重なものと強く感じます。一人でも多くの日本人に、今こそ、このような消してはいけない日本の文化と先人の生活について考える時間を持つためにも、チャンスがあればいろいろな方に見ていただきたいフィルムなのです。この「アチック・フォーラム」の上映会運動は、少しずつ全国に広まっているようですが、できれば、静岡でもこのフォーラムを行えたらいいなあと、今私は奔走しております。なんとかなったら嬉しいのですが...

4月から9月までの間で8作品見ましたが、このフォーラムの目標は、何年かかっても全作品見ましょと、大変な意気込みの人が多いのです。9月12日の上映会の後の、姫田先生との楽しい語らいの中で、「昨日私も80歳になりました。」とおっしゃっておりました。でも、先生のお話がとても楽しく、よいお話をさせていただきますので、いつまでもご健勝でお過ごしいただきたいと念じております。このような、先生のお話を伺うにつけても現代人が(もちろん私も含めてですが)、口ハスなどといって“自然に帰ろう”などと、軽い口調で語ることへの恥ずかしさを感じてしまいます。

折しも、9月5日に「東京新聞」と「中日新聞」夕刊の一面に、『**あの人に迫る**』“**姫田忠義 = 記録映画作家**”と、大きな写真入りで掲載されました。ご興味のある方は、図書館などで是非お読み下さい。ご感想などお聞かせいただけたら嬉しく思います。



Lina Green
TEL 054-205-0308
HP <http://linagreen.com>

